

西武クレジット(現クレディセゾン)入社後、関連会社  
資金運用部で自己勘定の運用を手がけた後、投資顧  
問事業を立ち上げ海外契約資産などの運用助言を行  
う。'06年セゾン投信を設立、代表取締役社長に就任。

## 中野晴啓さん ゆったりのおんびり 財産作り



聞くところによると銀行のマニ  
ユアルでは長期投資は3〜5年と  
説明しているそうです。これに対  
して我々の長期投資は20年30年と  
いうスパンでおカネをしっかりと  
働かせるという考えです。  
20世紀、国内総生産(GDP)  
が実に12倍になった高度成長期と  
は違い、日本が経済の主役ではな  
い21世紀を生きていく我々は、時  
間軸を意識しなければなりません。  
長期投資は人類の長い経済成  
長に素直に乗っかっていく、実体経済

の成長におカネをゆつくりと乗せ  
ていくことが原理原則です。  
実体経済の成長をフォローカスす  
ると、それは21世紀のグローバル  
ゼーションです。ソ連がなくなっ  
た'91年以降、人もおカネも情報も  
自由に動けるようになり、地球が  
一体化した経済成長が始まりまし  
た。'09年現在では新興国の内需に  
よる経済成長という第2段階に入  
っています。全世界の半分近い人  
口を抱える新興大國を主役とする  
地球全体の成長に自分のおカネを

乗せて働いてもらうことが大切  
です。目先の波ではなく大きな流れ  
に乗せる、それが実体経済の成長  
を支えるいいおカネの使い方だ  
と思います。長い時間のおカネは「笑  
顔」を届ける「与える投資」です。  
その結果は、自分にも果実を戻し  
てくれるのです。  
まず自分で行動することが大切  
です。21世紀の日本社会では行動  
した人としなかった人では大きな  
差がついてしまう。今すぐに長い  
投資を始めましょう。

コモンズ投信は30年の目線で30  
銘柄へ厳選投資する、そして対話  
を大事にするのが特徴です。  
30年は1世代。投資は自分だけ  
でなく、子供や孫などほかの誰か  
のためにできる。その意味で30年  
持ちましようということ。  
なぜ30銘柄かという商品の価  
値を作る根源、何に投資している  
のかをきちんと分かってほしいか  
らです。それぞれの会社に経営者、  
従業員がいて商品やサービスがあ  
る。そこから我々の投信に収益が

あることを見てほしい。日経22  
5など平均的な企業をポートフォ  
リオとして持っていることに魅力  
は感じません。30年後でも30社く  
らい世界の中で力を持って牽引し  
ている企業があるはず。5社  
10社だとリスク分散が利かない。  
30社はちょうどいい規模です。  
企業価値を創造する主役は経営  
者、従業員、そして生活者である  
我々です。対話をしてみるとそこ  
で気付きがあります。  
仮に30年間毎月1万円積み立て

ると、360万円が年率5%の複  
利効果で約800万円になりま  
す。これをコモンズ投信が7%で  
回せば約1200万円。10年では  
それほど差がありませんが、20  
30年では大きな差が出ます。30年  
前、日本はジャバパンアズナンバ  
ーワン。今はジャバパンアズナンバ  
ーワン。そんな今こそ投資するべきで  
す。積み立ててならばタイミングを  
逃すことがありません。今日から  
始めればよい結果になる可能性が  
高い、実は夢がある投資なのです。



しづざわ・けん  
コモンズ投信株式会社社長

大手ヘッジファンド日本代表などを経て、'01年シブ  
サワ・アンド・カンパニー代表取締役。'08年コモン  
ズ投信会長職も兼任、現在に至る。意欲的な長期  
投資ファンド「コモンズ30ファンド」を設定。



## 『日経マネー』主催セミナーレポート

# “時間”を味方に ゆっくりと確実に 資産を殖やしていこう

8月22日、東京・田町で『日経マネー』主催のセミナー  
「これから始める!長期投資のススメ」が開催された。  
ゲストは本誌でもおなじみの豊島逸夫さん、渋澤健さん、中野晴啓さん。  
ユーモア溢れる語り口のお3方の講演、  
盛り上がったパネルディスカッションの様様をお伝えする。

本誌/山上祥子 撮影/羽谷直政



### 第1部 講演

## 「長期投資」のメリット ディーラー経験者の3人が語る

豊島逸夫さん

### 金を通して 世界経済を読む

前米連邦準備理事会(FRB)議  
長のグリーンズパン氏、後任のバ  
ーナンキ氏はともに数々の金融危  
機をドルの流動性を提供する、い  
わゆる資金ジャブジャブ作戦によ  
って乗り越えてきました。それが  
現状の過剰流動性を生んだので  
す。今問われているのはその出口  
戦略です。

金融危機が終わったのになぜ金  
価格が下がらないのかとよく聞か  
れますが、今は金融危機ではなく  
財政危機。今後マーケットは過剰  
流動性戦略の「つけ」と戦わなけ  
ればなりません。米国は金融の引  
き締めに向かうでしょう。  
今Fレート(米国の代表的な  
短期金利)はゼロ同然。どこかで  
利上げに転じる必要があります。  
利上げの話が出ると株も金も下が  
る。それくらいマーケットは出口



としま・いつお  
ワールド・ゴールド・カウンシル日韓地域代表

一橋大学経済学部卒。三菱銀行(現三菱東京UFJ  
銀行)を経てスイス銀行で貴金属ディーラーに。豊  
富な体験をベースに現在WGCで非営利法人の立  
場から金の調査研究、啓蒙活動に従事。

戦略の行方を固唾を飲んで見守っ  
ています。  
もう1つの理由は欧州で金が売  
れていること。今欧州系の銀行が  
一番ハイリスクの証券化商品を持  
っています。銀行システムに不安  
が起ると金を買われます。さら  
に中央銀行の金の売却が沈黙化、  
買い転じたことも一因です。

今は高値になるとリサイクルの  
売りが増え、下がるとみんな買う  
中で価格が動いています。年内に  
1トロイオンス1000ドル、瞬  
間タッチで1100ドルはいく  
が、1150ドルは厳しい。下値  
は875ドルが私の予想です。



# じっくりお金持ちになろう！ 大事なのは殖やしたおカネをいかに使って 人生を豊かにするかということ

第2部はマイクの取り合いになるほど盛り上がったパネルディスカッション。主張の違いはあれど、常に笑いが起る楽しい雰囲気では進んだ。

豊島逸夫さん  
×  
洪澤 健さん  
×  
中野晴啓さん  
司会:  
「日経マネー」編集長  
鈴木 亮

— マクロ経済、相場の見通しは？

**中野** 長期の流れではなく、目先の値動きについて話せ、と。(笑)  
米国の経済は予想以上に回復し、今年の第4四半期とみていた底打ちが第3四半期に前倒しされそうです。一方で世界経済の主役は既に中国、インド。これからかなりワクワクする息の長い経済成長が始まったのではないのでしょうか。  
— ちなみに日米の株式相場は？

**中野** 今、米国の株式は踊り場でもしかしたら再びゆっくりするようなV字回復があるかもしれません。日本はよくも悪くも輸出主導ですから、中国の需要に確実に支えられていきます。これが下支えとなつて、米国株が上がり始めれば追隨するだろうと思っています。

**豊島** 私はVではなく変形Wだと思います。今はマクロ経済も日本もWの真ん中の頂上あたり。安心するにはもう一度下を見ないといけない。企業業績は回復したけれど、リストラとコストカットの雇用なき経済回復です。企業業績のかなりの部分は財政出動の恩恵です。いわばカンフル剤なので持続性があるかどうか。Wで回復して

も、縮小均衡で昔には戻らない。長期的に生活レベルを2、3段階ダウングレードすることを前提として、それを維持するための長期投資を考えるべきでしょう。

**洪澤** プロのファンドマネジャーが一番怖いのは買っていないときに相場が上がることですね。だから上がり始めると買いに走る傾向があり、今の局面はそれではないかと思っています。あるエコノミストが今の回復はドットコム型の回復つまりWW型だといっています。(笑) 9月、10月の様々な経済指標の前年比を見ると、リーマンショック後との比較ですから当然回復しているはずなんです。それが案外回復していかれば、期待はずれとして株が下がる可能性があります。その時にもつと下がると思つて相場から引くと案外底かも知れない。だから常に積立投資をしていると安いところが拾っ



## 日本人のDNAに合う投資法が必要。 積み立ては日本人に合っている

— していきます(笑)。

— 投信の30銘柄はどういう基準で選ばれるのですか。

**洪澤** 一つは企業の文化、DNAを理解する、二つ目は経営力ですね。そして国際競争力があるか、強いブランド力があるか、経営者がいろいろなステークホルダーと積極的に会話するスタンスがあるか。企業の収益性も当然見ます。

— セゾン投信はいかがですか。  
**中野** メインはインデックス投資ですので個別銘柄はいじりません。

30年間複利でゆっくり殖やしていけばいい人にとってインデックスはすごく合理的な買いです。大事なのは、実体経済の成長という大河の流れの中に長期ですつと乗っていくことです。

**豊島** ただ、普通の人はなかなか我慢ができません。急騰すれば欲が出る、下落すれば怖くなるんですよ。そこが難しいですね。

**洪澤** 中国、インドはインデックス投資でいいけれど、日本株はインデックスでは勝てないですよ。  
**中野** インデックス投資でも単独の国の株では、短期の値動きに翻弄されます。だから世界に分散することが必要です。

**豊島** 日本人の半分以上の投資家は、どんな商品でも今日買って明日下がると頭の中が真っ白になるそうです。リスク耐性がないのですね。我々が20カ国で調査したところ、圧倒的にその割合が多い。日本人のDNAなのでしょう。だとしたら日本人に合った投資方法が必要。積み立ては日本人に合っていると思います。

— 最後に個人投資家の方へのひとことを。

**中野** おカネは使うために殖やすわけですから、人生の中でのおカネの使い方を考えて、よりよく使っていたらいいと思いますね。

**豊島** 業界にうまみがある商品は投資家にうまみはない。例えば信託報酬の安いETFは証券会社は扱いたがりません。その中でこの2人は既存の流通チャネルとは違う直販方式でやっている。こうした投資家にとって大事な情報に敏感になって欲しいですね。

**洪澤** 投資の世界では結果がすべてという人は多い。でも人生の最後の「結果」はみな同じ。だからどう生きるかが大切。投資も結果だけに目を奪われることなく、30年後を変えようという意識で動く方が増えるといいと思います。

最後の「結果」は同じでも  
それまでどう生きるかが人生。  
投資も同じです

パネルディスカッションなのにみなさんホワイトボードを使って、身振り手振りの白熱した議論を繰り広げてくれた



おカネは使うために殖やすもの。  
よりよい使い方を考えて欲しいですね

セミナーレポート  
“時間”を味方にゆっくり  
確実に資産を殖やす